



mundef Magoso School

目次/contents

- ☞ マゴソスクールとは？/ What is Magoso School?
- ☞ マゴソスクールのあるケニアの首都ナイロビって？/About Nairobi
- ☞ キベラスラムとは？/What is Kibera Slum?
- ☞ スラムとは？/What is Slum?
- ☞ ケニアの教育課程/A Kenya curriculum
- ☞ プロジェクトマゴソ/Project Magoso
- ☞ アグネスとドリスの日本留学/Agnes and Dorice study in Japan
- ☞ 早川千晶さん講演会/The lecture Presentation by Chiaki Hayakawa
- ☞ ドリスインタビュー/Interview with Dorie
- ☞ mundef NEWS

一般財団法人 mundef 事務所 Secretariat of mundef
TEL+81.3.5414.7778 info@mundef.net
www.mundef.net

We are the mundef.

mundef は、音楽(music)とデザイン(design)を組み合わせたコトバ。地球には、解決しなくてはならないコトバがたくさんあります。様々な問題に取り組むためには、国境を超えて人々が協力し合うことが大切。そのために生まれたのが、mundef(ミュージェフ)。「地球と人類が直面する宿題解決をちょっぴりでもお手伝いしたい。国境も言語も人種も超えるチカラを持つ音楽とデザインの特技を活かして！」そう考えるアーティストの集まりです。We have so many issues to solve. To solve problems, it is crucial that people cooperate with each other beyond borders. We, mundef, was established for that purpose. The term mundef is a combination of the words music and design. We want to contribute to solving the issues the Earth and human beings are facing, even if only slightly, through exploiting the special power of music and design that goes beyond borders, languages and races. mundef is a group of artists who share that principle.

mundef よりオンライン寄付のご案内

「毎月継続して寄付したい」「オンラインで寄付したいのだけど」そんな要望にお応えして、mundef では NPO 活動・チャレンジを支援するサイト「JustGiving(ジャストギビング)」からの寄付を開始しました！方法は簡単。JustGiving 内の mundef ページから寄付金額を選択し、画面の指示に従って寄付を行うだけ。毎月の継続寄付も可能です。

一般財団法人 mundef ページ: <http://justgiving.jp/p/1381>

ぜひご支援のほど、どうぞよろしく申し上げます！

You are able to donate online!

We start online donation system, using "JustGiving" which set up for support NPO's challenge.

Donation is very simple. Go to JustGiving's page and click the amount of donation you like, and follow instructions on screen. You could donate every month continuously.

We could manage by your support. Any support would be appreciated!

mundef page : <http://justgiving.jp/p/1381>

マゴソスクールって？

ケニアの首都ナイロビにあるキベラスラムの一角にある、マゴソスクール。キベラスラムに住む住民によって運営されています。現在約 470 名を超える子どもたちがここマゴソスクールで学んでいます。

マゴソスクールは、キベラスラムで生まれ育ったリリアンさんが「子どもたちに教育の機会を与えたい、親を失った子どもたちのお母さんになりたい」という思いからスタートしました。当時リリアンが暮らしていた長屋の一室に 20 人の孤児の子どもたちを集めて寺子屋を作ったことがマゴソスクールの始まりです。スラムに暮らす子どもたちの中には、親が失踪してしまったり、虐待を受けていたり、中には親を目の前で殺されてしまったなど、精神的にも経済的にも支えを必要としている子どもがたくさんいます。こうした子どもたちの中には、住む場所も無く、毎日食べるものを確保することも困難なことも。まして教育を受けることは、非常に困難です。マゴソスクールは、授業の他に音楽やダンス、体操などを通して、子どもたちの精神の安定と成長をサポートします。また、職業訓練を通じて将来の生活の安定につなげていくなどの取り組みも行われています。

マゴソスクールに入る前の年齢の子どもたちは、セカンダリースクールを卒業した OGOB がボランティアとして子どもたちに歌、お絵かき、ドラムなど教えています。また、子どもたちのサポートの一環として、マゴソスクールではキベラスラムでの学校の運営のほか、首都ナイロビから離れたミリティーリヤ村で、村の方たちの協力を得て「ジュンバ・ラ・ワト子どもの家」を運営しています。特に生活状況が深刻な 2 歳から 17 歳の子どもたちが、寮母さん、キベラスラムから派遣された先生、マゴソスクールの OGOB たちと共に、一緒に暮らしています。

What is Magoso School?

Magoso School is located in Kibera Slum in Nairobi, Kenya. This school has been managed by those who live in the slum. Now more than 470 children are studying in this school.

Liliane, the school founder, launched the management of the school with her strong will to give opportunity children in slum to study. She started this private school with 20 students at her house. Some children lost their parents, some were abused by their own parents, and some of children watched parents were killed. They need mental and financial support. Some have no place to live and have difficulty to obtain food. In such a horrible situation, it is definitely difficult to go to school.

Magoso School gives children opportunity to go to school, and support their mental stability and physical growth. Moreover, the school tries to give them plenty of entertainment through music, dance and physical exercises. They also have a job training program for their future. Graduates of Magoso School volunteer to help preschool-age children by singing a song, drawing a picture, and playing drum.

Besides the management of the school, they organize "Jumba ra watoto children's house" in in Milityrya village far from Nairobi. Deprived children aged from 2 to 17 years live in this house with housemother and teachers and graduates of Magoso School.

mundef news vol.42

マゴソスクールのあるケニアの首都ナイロビって？

ナイロビはケニア共和国の首都であり、人口は 336 万人 (2010 年現在)。アフリカの中でも最も急速に成長した都市の一つです。東アフリカの中心都市として、国連環境計画や国際連合人間住居計画など国際機関も本部をナイロビに構えている他、多くの国際機関や企業のアフリカの代表部も位置しています。ナイロビに行くと驚くのはたくさんの近代的な高層ビルでしょう。赤道近くに位置しますが、標高が約 1600m という高地に位置するため、気温は一年を通して平均 23.4℃ と、過ごしやすい気候なのも特徴です。公用語は英語がスワヒリ語、日常的な場面でクワコ語もつかわれます。ケニアの学校では授業は英語で行われており、マゴソスクールの授業も英語で行われています。



キベラスラムとは？

ナイロビの中心から 5km ほど離れた所に位置する東アフリカ最大のスラムです。2.5km 四方の土地に、90 万人の人々が暮らしていると言われています。スラム街と聞くと、暗く怖いイメージがありますが、マゴソスクール設立当初から運営を支えるケニア在住の早川千晶さんのお話によると、キベラスラムの人は困難な環境で暮らしていても、とても明るく、笑顔で溢れているそうです。安全が保障された場所ではありませんが、みんなが協力し助け合って暮らしています。

スラムとは？

国連の定義によれば、スラムとは、都市部の人口密集地域にみられるような、①きれいな水へのアクセス、②改善された衛生設備、③十分な住居スペース、④耐久性のある家屋、という人間が生活するための最低条件が備わっていない住居区域を指します。スラムの多くは、公有地や私有地に不法に形成されているため、スラムで暮らす人々は、上下水道や電気などの公的サービスを受けることが難しい状況にあります。

世界中のスラムに住む住民の数は増加傾向にあり、21 世紀初頭の時点でおよそ 10 億人が暮らしていると言われていましたが、国際連合人間住居計画の統計によると、2030 年には、現在の倍の 20 億人に増加すると考えられています。2015 年までに果たすべき世界の約束「ミレニアム開発目標」MDGs の中でも Goal 7 で「2020 年までに、最低 1 億人のスラム住居者の生活を大幅に改善する」ことが、目標として掲げられています。



ケニアの教育課程

ケニアの教育制度は初等教育 8 年 (2003 年に無償化、2010 年に義務教育化)、中等教育 4 年 (2008 年から無償化)、高等教育 4 年の 8-4-4 制で、次の教育段階に進むには国家統一試験に合格する必要があります。そのうち、マゴソスクールは、初等教育にあたります。

高等教育への進学に必要な統一試験は中等教育修了試験 (KCSE) と呼ばれ、進学率は約 25%。まだまだ大学への入学は狭き門です。近年高等教育へ進学をするために KCSE を受ける受験者の数も年々増えており、2011 年の受験者数は 41 万 586 人、増加率は前年比約 15.9% と過去最大となりました。人口約 3800 万人のうち 4 割強を 15 歳未満が占めるケニアでは、まだまだ進学希望

About Nairobi

Nairobi is the capital city of Republic of Kenya. Nairobi is the most populous city in eastern Africa, and according to 2010 census, about 3,360,000 people live in this city. Nairobi is one of the most prominent cities in Africa, both in politically and financially. Home to thousands of Kenyan businesses and over 100 major international companies and organizations, including the headquarters for the United Nations Environment Programme (UNEP) and the United Nations Human Settlements Program (UNHSP), Nairobi is an established hub for business and culture. If you went to Nairobi, you would be surprised to see many modern high-rise buildings.

Nairobi is located near the equator, but it is located at 1600 meters above sea level. That's why therefore, average temperature is 23.4°C through a year. Official languages are Swahili and English and people speak Kikuyu in daily life. In Kenya teachers use English in class, so in Magoso School, they usually teach children by English.

What is Kibera slum?

Kibera is a neighborhood of the city of Nairobi, 5 kilometers from the city center. Kibera is the largest urban slum in Africa. About 900,000 people live within a radius of 2.5 kilometers.

What is your image on the word 'slum'? Scary? Dark? According to Ms. Chiaki Hayakawa, who lives in Nairobi for 22 years and supports to manage Magoso School, people in slum live with full of smile even though they live in severe situation. Kibera is not safe place, but people support and help each other.

What is slum?

UN-HABITAT defines a slum household as a group of individuals living under the same roof in an urban area who lack one or more of the following: (1) durable housing of a permanent nature that protects against extreme climate conditions, (2) sufficient living space which means not more than three people sharing the same room, (3) easy access to safe water in sufficient amounts at an affordable price, (4) access to adequate sanitation in the form of a private or public toilet shared by a reasonable number of people, (5) security of tenure that prevents forced evictions.

Most of slums are located in public or private area illegally, most lack reliable sanitation services, supply of clean water, reliable electricity, timely law enforcement and other basic services.

The rate of slum residents is becoming an increase in the world. According to UNHSP, about 1,000 million people live in slum at the beginning of 21st century, however, the slum population is estimated to increase 2,000 million in 2030. International society declared Millennium Development Goal in 2000. Among 8 Goals, Goal 7 set slum-related goal to halve the proportion of the population without access to safe drinking water and basic sanitation by 2015.

者は増加することが予想されています。しかし、良い成績を納めたとしても、教科書代を払うことができれば学業を続けることが難しくなります。

進学できない子どもたちは田舎の貧しい農村や、スラム街に集中しています。このままでは、将来のケニアの発展に繋がりません。また、貧富の差の拡大にもなります。マゴソスクールでも、マゴソスクールで 8 年生を卒業したのにもかかわらず、経済的理由からセカンダリースクール (高校) への進学を諦めざるを得ない子どもたちは沢山居ます。

mundef news vol.42

A Kenya curriculum

Kenya introduced the 8-4-4 system of education, which adopted 8 years of primary education, 4 years of secondary education and 4 years of university education. Students have to pass the national unified examination to enter next curriculum of education. At the end of the fourth year, students sit for the Kenya KCSE (Kenya Certificate of Secondary Education) for college. Examination pass rate is not high –about 25%. The examinees are getting higher, and 415,860 people took KCSE in 2011. Up 15.9% year-over-year, the largest number of examinees in its history. In Kenya 40% of population

Project Magoso

mundef は設立以来、キベラスラムにあるマゴスクールの子どもたちを支援しています。2008 年から、マゴスクール卒業生の進学支援を行う奨学金生を通じて、これまでに支援してきた子どもたちは 14 名です。そのうち 9 名がセカンダリースクールを卒業し、就職や進学など、それぞれ自立の道を歩み始めています。



マゴスクールでは初等教育にあたる内容を学びます。マゴスクールで学ぶことは子どもたちにとって大きな意義があります。しかし、さらに中等教育であるセカンダリースクールに進学することは、学ぶ意欲のある子どもたちの将来の可能性を大きく広げることにつながり、mundef では中等教育の子どもたちの進学の支援を実施しています。

2014 年現在、前年より支援しているルワビに加え、新規支援者として3名(ポーリー、アイリーン、ドルカ)、合計 4 名の子どもたちをサポートしています。

アグネスとドリスの日本留学

マゴスクールの活動とさらに高等教育への進学を希望する子どもたちの話に感銘を受けて、立正大学の有志によって設立されたのが、「ドリス・アグネス基金」です。これによって、セカンダリースクール卒業 2 期生のドリス、アグネスの日本留学が実現しました。アグネスとドリスは立正大学に 4 年間留学することになります。留学中は大学の寮に滞在する予定です。今回の留学の渡航費、学費、寮費などは「ドリス・アグネス基金」の設立により、実現しました。

日本に到着した 2 人は、到着後、日本語のショートプログラムを 3 週間に渡り受講します。その後、9 月 20 日から 2015 年 3 月 30 日まで実施される日本語プログラムに参加。その間に大学受験を受けて、合格すれば、2015 年 4 月 1 日から大学社会福祉学科に入学、4 年間に渡り日本人学生たちと共に、福祉の勉強をする予定です。

アグネスは mundef がこれまで支援してきた子どもの1人です。アグネスは 1993 年生まれ、2008 年にマゴスクールを卒業し、2012 年にはセカンダリースクールを卒業しました。卒業後、2013 年度は、マゴスクールのボランティアスタッフとして幼稚園を担当してきました。2014 年は新設の障がい児特別支援学級の担当をしていました。

彼女たちの在学中は、学生たちとの交流や、ケニア文化の紹介、施設訪問などがあるそうです。こうしたイベントや彼女たちの情報も発信していきますので、ぜひ、ご覧下さい！

早川千晶さん講演会「アフリカのラムに学校を作る」

～子どもたちの笑顔、命の輝き～

6 月 6 日に立正大学熊谷キャンパスで早川千晶さんの講演会が行われました。早川千晶さんは、ナイロビ在住 22 年、世界放浪の末、ケニアに定住、キベラスラムに子どもたちの駆け込み寺として、リリアンと共に、「マゴスクール」を作りました。

講演会では、マゴスクール立ち上げから、今まで、どんなに辛くても生きることを諦めない明るく、たくましい子どもたちのお話、ケニアの貧困、ストリートチルドレン、孤児、児童労働、こうした社会のしくみについてのお話もありました。また、ドリスが講演会の中で、自身の生い立ちや、マゴスクールでの生活、

is under 15 years old, it is estimated that the KCSE examinees are increasing for some time in the future.

On the other hand, even though they could pass KCSE, they cannot afford to go to college because of poverty. Especially, many students in poor villages or slums can't go to school converge. This situation caused widening gap between winners and losers, which is definitely not good for Kenya's future. In Magoso School, many excellent students are forced to give up secondary education for economic reason.

Project Magoso

mundef has supported Magoso School since 2008. We have supported 14 students, give them scholarship for secondary school. Up to now 9 scholarship recipients graduated from secondly school in total. They are independent financially, and in active in several area.

Learning in secondary school has big meaning for children. Through going to secondary school, they can have a great deal of choice about what they do in their future. That's why we support students for secondly school.

In 2014, we support 4 students; Lwabi, Boye, Irene and Dorcan. You can read each student's profile on our website.

Agnes and Dorice study abroad in Japan.

Agnes and Dorice, graduates from secondary school, decided to study welfare program in Japan for 4 years. Professors and officers in Rissho University were tremendously impressed with the story of Magoso School, they set up foundation for graduates.. And they recognized Agnes and Dorice to come to Japan and study. Agnes and Dorice are also recognized to stay in college dormitory and offered tuition assistance.

After they arrived in Japan, Agnes and Dorice soon take 3 weeks program of studying Japanese. After summer vacation, they will take next program of Japanese program from September 20th to March 3rd 2015. While they are taking this Japanese program, they need to take an entrance examination for Rissho University. If they pass this exam, they can enter university and study social welfare with Japanese students for 4 years.

Agnes is one of the scholarship recipients from mundef. Born in 1993, she graduated from Magoso School in 2008 and go to secondary school. After graduated in 2012, she volunteered at nursery school. Since 2014 Agnes has looked after new class for handicapped children.

During the stay, Agnes and Dorice will attend several events to introduce Kenya's culture and history, etc.

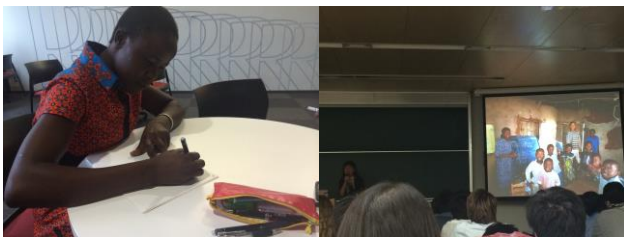
ボランティア教師として、ジュンバ・ラ・ワト(子どもたちの生活する家)で生活することもたちのお母さんとして、キベラスラムでの生活について話してくれました。

教科書やメディアだけでは、知ることのできない事実や、早川さんがこれまで、ケニアで見て、感じた様々な体験やお話は、たくさんのことを考えさせられました。不平等な社会が生んだ、貧困や社会は、何の罪のない子どもたちが犠牲になります。しかし、どんな状況でも子どもたちは生きる希望を失いません。私たちは豊かで、恵まれた環境の中に生きています。こうした現実を知った時、私たちは当たり前前の幸せに気付かされます。豊かな生活をする私たちに何ができるのでしょうか。

The lecture Presentation by Chiaki Hayakawa "Build a school in slum in Africa" Children's smile and sanctity of life-

Chiaki Hayakawa, manager of Magoso School had a public lecture presentation at Rissso University on Jun 6th. Ms. Hayakawa has lived in Nairobi for 22 years. After she traveled around the world, she decided to live in Kenya, and she support her best friend Liliane launched Magoso School.

In this lecture, she talked about her challenge to manage private school in slum. Additionally, she introduced the reality of Kenya, like street children, child labor and the poverty gap. Nonetheless, how hard the situation is, children never give up. At last, Dorice talked about her life, and her memory about Magoso School. She volunteered in Magoso School, teaching and loving with children who grow up away from their families. We seldom have an opportunity to know such a story on the other side of the world, and this



ドリスへのインタビュー

今回、講演会の後、留学生の一人、ドリスにインタビューする時間をいただきました。日本について、将来について、講演会の中のお話以外に、色々なことを熱心に話してくれました(イタリ アー:栗原亜美)。

栗原(以下、栗):日本に留学が決まった時、どんな気持ちでしたか?

ドリス(以下、ド):幸せだった。

栗:来日する前、日本についてどんなイメージがありましたか?

ド:日本は豊かな国だから、みんな働いていないと思った。人間は怠け者だから、豊かな国に住む日本人は、遊んで、仕事をしていないと思った。

栗:そのイメージは変わりましたか?

ド:変わった!みんな働く働き者で、真面目な人だった。

栗:日本に来て、不便に思うことはありますか?

ド:日本語が話せないことです。日本の学生ともコミュニケーションを取りたいけど、日本語ができないと、英語だけのコミュニケーションは難しい。

栗:日本語は難しいですか?

Interview with Dorice

After the lecture, Ami Kurihara, intern of mudef interviewed with Dorice. She talked about Japan, her future and so on.

K (Kurihara): When decided to study in Japan, how did you feel about that?

D (Dorice): I'm so happy!

K: Before you visited Japan, what image of Japan did you have?

D: I thought Japan was rich country, so nobody work in Japan. Because people are lazy by nature, I imagined Japanese people just do something fun and enjoy their life.

K: After you came to Japan, did you change that image?

D: It was totally different. Japanese take their work very seriously.

K: Did you face disadvantage in Japan?

D: I can't speak Japanese. It is a bit of an inconvenience, I want to communicate with Japanese friends more fluently, but it is really hard to communicate with them in English.

K: Is it difficult to study Japanese?

D: Difficult. Because Japanese have 3 types of character; Hiragana, Katakana and Kanji (But she wrote several phrases in Japanese like *I am a student of Rissso University*).

K: What is your favorite Japanese word?

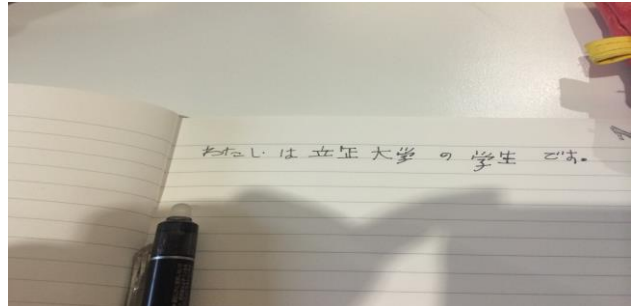
D: Kawaii ne! (Cute)

K: What was impressive sight in Japan?

D: Tunnel! I wondered how to construct it under the mountain, and when I went through a tunnel, it was so dark that surprised me. I have never seen

lecture made me think about many things.

Unequal society produce poverty, and cost deprived children their future. It is true, but they have right to have a hope for better future. In Japan, our life condition is better than that in Africa. What should we do for them from rich country?



ド:ひらがな、カタカナ、漢字があるから難しい(それでも「わたしは立正大学の学生です」と漢字とひらがなを使って、書いてくれました)

栗:好きな日本語は?

ド:「かわいいねえ」(笑)

栗:日本に来て感動したことはありますか?

ド:トンネル。山の下にどうやって、トンネルを作っているのかとても不思議。今までに見た事がない。中を車で通った時もびっくりした。

栗:私もどうやってできているのか、わかりません(笑) 将来の夢は何ですか?

ド:先生になること。ケニアに戻ったら先生として働きたい。

栗:キベラスラムでの一日を教えてください

ド:夜は10時に寝て、毎朝5時に起きるの。子どもたちの朝ご飯を作って、掃除をして、子どもたちを起こして、学校の準備を手伝うの。毎週火曜日は洗濯の日だから、朝4時に起きるわ。

栗:学校ではどんな事をするの?

ド:子どもたちに、絵画、ドラムなど好きなものを選びせて、教えています。

栗:1つのクラスに何人くらい居るの?

ド:55人と68人のクラスがあって、20人ごとに1つのテーブルに座るの。

栗:沢山、生徒が居るから、名前を覚えるのは大変じゃないの?

ド:授業中に「先生!先生!」って呼ばれるから、自然と覚えるわ。

栗:みんな、熱心に勉強しているんですね。

他にも、震災の時にマゴソスクールの子どもたちが日本のみんなに向けて歌を歌った時のお話なども伺いました。彼女は「歌で繋がることできる」と言いました。震災の時も日本の皆さんのことを想って、祈りながら歌ったそうです。この世を去ってしまった仲間や家族にも、歌っていれば、その想いは届くと話してくれました(インタビュー全文はウェブに掲載されています)。

such a scene before.

K: What are you planning to do for the future?

D: I want to be a teacher.

K: The last question I'd like to ask you is how to spend the day when you were in Kibera.

D: In Kubera I sleep at 10pm and wake up 5 am. After I wake up, I cook breakfast for children, clean the room, and wake children up. Every Tuesday is laundry day, so I have to wake up at 4 am. As a volunteer, I was there to teach singing a song, painting a picture, and playing a drum. I let children chose to play.

K: How many children in one classroom?

D: It depends on the grade. There are from 55 to 68 students in a class. So, 20 children have to use 1 table.

K: Isn't it hard to remember the children's name?

D: No it isn't because children call me "teacher!", so I remember their name before I know it.

Children in Magoso School sang a song for us Japanese where was hit by large earthquake and tsunami. Dorice said that we could connect us by singing, so she also joined sing a song with the pray for stricken Japan. According to her, song has a strong power to communicate with each other. Also someday people will see each other if you keep pray and singing (you can read the full text of the interview on mude website).